学校番号	３２５

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ（文・文理）	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　改訂版　古典Ｂ」（第一学習社）						
副教材等	『最新国語便覧』（大修館書店） 『ニューエイジ古文　達成２＋』（第一学習社） 『大学入試　最新国語頻出問題』（いいずな書店） 『いろはにほへと古文単語３３０』（いいずな書店） 『新明説総合古典文法』（尚文出版）						

・二年生で学んだ助動詞の定着を徹底し、古典を読解するにあたり必要な知識を身につけましょう。
・さまざまな時代の文化や習慣等を理解し、より深い内容理解に取り組みましょう。

２　学習の到達目標

学んだ文語文法の知識を自ら活用して読み解く。多くの古典を味わうことで、先人の知識、思想に触れ、自身の考えを豊かにする。文法面では助詞の習得、助動詞の活用を目指す。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝えあう力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深めている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字や、慣用表現等について理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選 定期考査など）	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選 定期考査など）	行動の観察 記述の点検 （ノート、小テスト、ワークシート、名作選、定期考査など）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	随筆	『枕草子』 「二月つごもりごろに」 『徒然草』 「あだし野の露消ゆるときなく」	○	◎	◎	a:興味を持って内容を理解しようと努めている。 b:重要語句を押さえながら、現代語訳が出来るようになり、かつ、内容の理解ができている。 c:本文中の助動詞について意味や接続を理解している。時代背景を踏まえたうえで内容を理解している。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 c:記述の点検・行動の観察 小テスト・定期考査
1	物語	『平家物語』 「能登殿の最期」 『大鏡』 「菅原道真の左遷」	○	◎	◎	a:状況理解や、主語補充ができる。 b:語り文学としてのリズムを感じながら読み、語意を解しながら現代語訳ができ、内容が理解できている。 c:武士文化を理解したうえで「能登殿」の生き方、思想を理解する。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 c:記述の点検・行動の観察 小テスト 定期考査
2	日記	『和泉式部日記』 「手枕の袖」	○	◎	◎	a: 興味を持って音読し、ストーリーや登場人物の心情を理解しようと努めている。 b:本文の読みを通して言葉の意味を理解し、話の内容が理解できている。 c: 作品が書かれた当時の価値観を知り、その境遇で生きる人物たちの人生について理解している。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 定期考査 c:記述の点検・行動の観察 小テスト

2	評論	『無明抄』 「深草の里」	○	◎	◎	a: 状況理解や、主語補充ができる。 b:重要語句を押さえながら、現代語訳が出来るようになり、かつ、内容の理解ができている。 c: 作品が書かれた当時の女性の生き方や歌論を理解し、大まかに説明することができる。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 定期考査 c:行動の観察・記述の点検
3	物語	『源氏物語』 「明石の姫君の入内」 『とりかへばや物語』 「父大納言の苦悩」	○	◎	◎	a:興味を持って何度もよみ、ストーリーや登場人物の心情を理解しようと努めている。 b:重要語句を押さえながら、現代語訳が出来るようになり、かつ、内容の理解ができている。 c:平安時代の病気と物の怪の関係について理解し、源氏を取り巻く女性たちのストーリーについておおまかに説明することができる。	a:行動の観察・記述の点検 b:行動の観察・記述の点検 定期考査 c:記述の点検・行動の観察

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:読む能力
　　c:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。